

旭川の可能性無限大

～ 若手農業者が考える旭川地域農業の課題と未来への展望 ～

日時：令和5年11月30日（木）

午前11時から午前12時まで

場所：旭川市農業センター

【開会】（吉原監事）

ただ今から、旭川の可能性無限大「若手農業者が考える旭川地域農業の課題と未来への展望」を開催します。

本事業は、旭川市と旭川地域青年農業者連絡協議会の共同開催となっております。それでは、開会に当たりまして、会長の浅野より御挨拶申し上げます。

【会長挨拶】（浅野会長）

今津市長にはお忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。

今回の懇談会は、昨年実施していた旭川未来会議2030の流れをくみまして、日頃、若手農家が農業現場や農村地域について思っている課題と不安について伝え、市長と共有して、できれば目線も一緒に合わせていただければと思います。

僕ら現役世代がやりやすい環境を求めるのはもちろんですが、できればさらに次の世代、さらに次の世代へ、どんどんバトンを渡す方達にもより良く、より明るい農業の未来図を持てるような環境づくりが、今日1日でできるとは思っていませんが、その一歩目になれば嬉しいと思っています。

また、下国シェフにも本日お越しいただき、旭川食のアンバサダーという立場で、私達が育てた農産物を使い、美味しい料理を調理していただけるということなので、大変楽しみにしております。

前段は意見交換、後半は美味しいご飯を食べながら和やかに意見交換をさせてもらえればと思っています。

【意見交換】（吉原監事）

それでは、今津市長とJA青年部員との意見交換会を開催いたします。

【意見交換1】（参加者）

永山に住んでいます。

私から、労働力・担い手不足についてお伝えします。

先日、地域計画の説明会がありまして、旭川市の農家戸数が、10年前は1,400

戸あったんですけれど、この10年位で500戸ほど減少して、現状で900戸ほどになっているという話を聞きました。この先10年で900戸から400戸に減るんじゃないかと憶測ですが思いまして、その中でも現状で経営している農家のうち65歳以上の経営者が50%以上を占めています。それを考えると、この先10年で400戸ももたないんじゃないかと思いました。

実際、私の地域や他の地域で、現役で営農している先輩農家を見ても、「後継者がいない。」とか、「後継者がいても継がせず、自分の世代で終わらせる。」と言っている人がいます。そのような状況を見ていますと、農家が減っていくことに歯止めがきかないのではないかと思いました。

私も新規就農で始めましたが、新規就農で始める人を増やしていくというのはなかなかハードルが高いと思いました。そこで、一定期間、市の職員みたいな形で市が受け入れしてもらい、2～3年の期間を設けて農家で研修してもらい、農閑期は市の仕事をしてもらう形で、どちら側にもメリットがあるシステムを提案します。市の臨時職員でもいいので、この方法で新規就農しやすくなる可能性が高くなるのではないかと思いました。農家は辛くて汚いというイメージが強いと思いますので、そのイメージから農家はカッコいいみたいに変えていかないと、自分の子ども達にどうやって継がせようか考えているところです。次の世代にも渡しやすい職業として、農家という職業を子ども達の選択肢に入れてもらえるような、可能性を広げるための農業の魅力が伝えられるように、何か動きができればと思っています。

【意見交換2】（参加者）

私は神居古潭で小規模ですけれど有機農業を営んでいます。

どの地域でも高齢化による離農が深刻な問題です。私の地域はそもそも人数が少ないので、拍車がかかっています。農業は農村地域の主の産業なので、農業者がいなくなるイコール地域の人口が減っていき、町内会や消防団などの地域社会を形成しているものや、学校とかバスなどの交通関係がどんどん見る影がなくなっていくくらいに廃れていることがとても辛いです。農地をカバーするために大規模化を進めるのはとても重要なことなので進めてほしいという一方で、農村地域の人口を確保するというのを考えた時、大規模の農地だけではなくて、多様な農家が居て、使える農地と使えない農地があると思いますので、人口を確保する、農村地域の戸数を少しでも増やすという意味合いでは、新規就農者や移住者が住みたいと思えるようなインフラの整備など、そこから出なくてもこの地域に住み続けられる、外の人からはここに住みたいと思えるような農村地域を守る環境づくりをお願いしたいです。

手が入らなくなると、どんどん廃れていき、木が生えて使えなくなるのが農地です。また、農村地域が廃れると、都市部と野生動物との距離が近くなりますので、多面的な農村地域の重要性を踏まえて、いろいろ対策を練ってもらえたらと思います。

す。

【意見交換3】（参加者）

J A東旭川に所属しています。21世紀の森の近くの米飯地域に住んでいまして、鹿の被害が多く、今回、資料を用意しました。

この写真は私の父が撮影したのですが、鹿が出没して、写真のように踏みつけられたり、食べられたりしています。私の家だけではなく、東桜岡地域でも同じ事が起きています。

上川総合振興局の南部森林室の方に見てもらいましたが、道林に向かってハンターが鹿に対してライフルを撃てないという制限がありますので、木に茨線を張りたいのですが、そのためには管理道路が必要で、その道路を作れる状況ではありません。わな部会の方にも仕掛けにくいと言われました。

道路を作るためにはお金がかかるので、父が中山間地域整備事業や環境保全の方で補助金が下りないか探してみましたが、補助金を受けられないとのことだったので、どう対策したら良いのかわからない状況です。米飯地域全体でも知恵を貸してもらいたいのでお願いします。

また、捕った鹿肉は山の幸でもありますので、これを活用できたら、米飯地域にも良いと思っています。

もう1つは、東旭川地区全体の活性化についてですが、若者の減少で地域に活力がなくなっていますので、若い人が入ってこられるような体制を整えないと難しいと思っています。10月1日に「オールドファーム」というレストランが開店しましたが、この地域に協力してもらえることになり、私も含めた地域の野菜を使って営業しています。「ベルダのおうち」は、夏場に旅人がここに来て手伝ってもらうなど、この2軒が協力してくれます。このように地域でも協力して盛り上げていけたらと思います。

【意見交換4】（参加者）

東旭川の大坂畜産の近くで営農しています。

私からは、新たなお米以外の特産品を考えていきたいと思っています。なぜお米以外なのかと言いますと、お米の需要自体が減ってしまっていて、年間1人当たり50kgほどしか食していません。ピーク時の半分位の量です。日本全体で見ても約10万トンずつの需要減少もありますし、ある程度生産調整などの政策的な要素もありますし、大きな値上がりというのなかなか期待しにくいというのもありますので、お米以外の高収益となるような作物も頭に入れていかなければならないと思っています。

そこで、東旭川地域や旭川地域で取り組んでいる2つの野菜をプレゼンさせてい

たきます。

まず1つがこの後の試食でも使用される食材「寒締めほうれん草」です。東旭川地域で作っていますが、寒い地の利を活かし、寒さにあてることによって糖度をため込みます。糖度は8～13%位、普通のほうれん草は3～5%位と言われていきます。甘いトマトで8～10%、スイカで11～13%なので、どれだけ甘いかわかりませんが、この寒締めほうれん草を作るには苦勞もあります。ハウスを大雪から守らなければならないので、暖房が必要だったり、雪下ろしをしなければなりません。夜中に大雪が降ったら寝てはいられません。このような条件をクリアしながら作られる寒締めほうれん草なので、産地として拡大するとなったら、耐雪ハウスにアップグレードする投資が必要とか、ハウスを新設するとか、寒冷地に安定した選果人員などの雇用が必要になります。

もう1つ、さつまいもについても紹介させていただきます。これも旭川地域で広がっていて、JA東旭川では作付4年目です。今はJAあさひかわや近隣市町村でも作付けされていますが、さつまいもの消費量は2010年位まではずっと減少傾向でしたが、ここを境に伸びています。この人口減少の社会でも伸びているという作物なので、期待できるのではないかと考えています。

北海道はさつまいもの産地ではなかったのですが、産地ではない場所で作るというのは結構苦勞がありまして、さつまいもの苗を本州から購入していますが、拡大しようと思ったら、本州から苗の供給量が足りなくなります。では育苗しようと思ったら、暖房が必要となり、そのような経費がかかるという問題があります。

また、規模拡大や機械化しないと何ヘクタールとこなせなくなりますので、1から収穫するため、高畝（たかうね）を作るための機械、植え付けするための機械、蔓を刈り上げる機械、ビニールを剥がす機械、掘り上げて収穫する機械、1機数百万位、全部揃えると数百万では収まらない金額になります。

ただ、北海道で作るという強みもあります。本州産よりしっとりねっとり仕上がりが、甘みが乗り始めるのが早い傾向があります。そういう強みを旭川地域の特産品として出していけないかと思っています。できればこういった特産品のチャレンジについて、継続的な支援を考えていただけるとありがたいと思っています。

【意見交換5】（参加者）

JA東神楽に所属しています。西神楽の聖和地区で営農しています。

私からは問題提起といいますか再確認になりますが、ロシアによるウクライナの侵攻が始まり、そこから世界情勢がとても不安定になりました。令和4年から物価上昇が様々なものに影響し、農家の経済もいろんな経営形態がありますので影響も異なりますが、共通していることは、肥料、農薬、燃料、機械など、必要不可欠な物の価格が大きく上昇しています。経費が増加しても交付金や助成金も上がってき

て、収入が増えれば問題ありませんが、経費だけがどんどん増えている状況で、収支バランスが悪くなっています。支出を最小限に抑えて収入を上げることは皆さん当たり前のこととしてやっていますが、もっともっとシビアにやっていかなければならないと感じていて、限界がきていると思います。

もう1つ、市長が視察されている農地の基盤整備事業についてです。大規模が故に、私達の田んぼにいつ来るのだろうと思っています。予算の関係があると思いますが、ちょっとずつ遅れていると聞こえています。私のところにはまだ来ていませんが、他の農家のところでは来年やらないんだといううわさも聞こえています。

あと、水田活用について、水張りを5年以内にしないと交付金を出しませんという問題もありますが、この問題が影響してきます。完成した圃場を農家に引き渡されると、翌年からすぐに水張りして稲を植えることとなりますが、水を張ってトラクターで代掻き（しろかき）すると、トラクターがはまってしまいます。バックして戻ろうとしても戻れず、ユンボとかで引き上げることとなります。せっかく工事したのに、これでは意味が無いのではないかという事案が何件か起こっています。こういう話をいろんな農家から聞いています。今後、大きい田んぼを作って、将来へ受け継いでいくことを考えたときに、作業がスムーズに行えるように、不備のないよう、きちんとした田んぼを作る工事というのを、行政や関係各省の皆さんに一言伝えていただけたらと思います。

【意見交換6】（参加者）

東神楽で旭川空港の近くで営農しています。私からは農産物の出口戦略について、旭川市に期待するところについてお話しさせていただきます。

コロナがあけて、だんだん観光客が戻ってくるなか、旭川市に観光の拠点として動物園があり、美瑛・富良野の観光も旭川市が拠点となっていますが、観光をより一層盛り上げるためには、農業や食との掛け合わせが不可欠ではないかと思っています。旭川地域の食の魅力を発信する場所を、例えば道の駅とか、旭川空港とか、場所はいろいろありますが、こだわって作った農産物、新しくできた特産物を発信する場所があると、私達農家もやり甲斐がありますし、農産物のブランディングという面で、将来にわたってこれからの農業を左右する一番の問題になるのかなと思っています。旭川市と農業が一緒になって、地域の観光を盛り上げていけると、いろいろな課題の出口が見えると思いますので、是非やれたらと思います。

【意見交換7】（参加者）

この度はお忙しい中ありがとうございます。

私達としては、お米が一番売れてもらうのが一番助かりますし、営農に繋がります。近隣市町村をみますと、当麻町や東川町、深川市は何のイメージかという、

お米のイメージが強いです。市も間に挟まれています。市も道内でトップクラスの生産量です。北海道米でトップということは、全国でもトップクラスだと思っています。その中で市として、4農協だけでやるのではなく、市が中心となって一緒に何かイベントとか、道の駅とか、旭川空港とか、北海道でいうと新千歳空港とか、そういった所で市として販路を広げていけるような活動を、市と農家が一緒になってできればより良い方向に進むのではないかとすごく感じています。

実際、私達も田んぼアート事業をやっている、たくさんの人に来ていただいていますし、そういった所で食育にも繋がっていくのかなと思います。下國シェフが食のアンバサダーとして旭川にいらっしゃる状況ですので、そういう方の力を借りて、もっと市外や道外にアピールしていければと感じています。是非みなさんとやっていけたらと思っています。

【意見交換8】(参加者)

J Aたいせつに所属しています。私は鷹栖町で農業をやっています。作付面積が90町位です。

私からは、市と町の連携の在り方というテーマでお話しさせていただきます。

私が住んでいる鷹栖町は人口が少なく、農業が産業の町ですが、小さい町だからこそ、農業に対する支援がすごく手厚いです。J Aたいせつという地域は、鷹栖町と旭川市の東鷹栖という、市町村をまたいでいまして、私達鷹栖町は助成金が出ますが、東鷹栖地域の人には助成金が出ないことがあります。例えば、GPSを使った自動操舵のキットがありますが、そのキットの半額助成があります。

旭川市には優秀な職員がたくさんいらっしゃるのには存じていますが、人が多いからこそ、縦割りではないですが細分化されていて、なかなか身動きが取りづらいのかなと思いますので、他の市町村のように、アンテナを張って動いて欲しいと思いますし、鷹栖町に限らず、他の近郊市町村の動きとか、悩みなどを把握していただきたいと思っています。過疎化が進んでいく地域から徐々に衰退していくので、そこも旭川市とうまく連携し合って、市だけでなく周りともやっていかないと、徐々に縮小していき、いずれ旭川市にも波が来ると感じてしまいます。色々な市町村の意見を聞いて、一緒に歩み寄っていただきたいと思っています。

【意見交換9】(市長)

今日は大変貴重なこのような機会をいただきまして、感謝申し上げます。皆様のお話を聞いて、旭川の農業の未来は明るいなと力強く感じました。皆さんの御質問にお答えする前に、私の農業に対する思いを聞いてほしいと思います。

私は2年前に市長に当選しましたが、その時から、旭川の農業の可能性は無限大と言っていました。ただ、具体的にどうしていけば良いのか常に疑問に感じていて、

挨拶回りで1軒1軒回って聞かせていただき、旭川未来会議2030で御意見をいただいたり、こういった機会をいただいたり、女性部の皆さんと意見交換したり、農業委員会の皆様からお話を聞いたりして、できるだけ皆さんの意見を取り入れて、農業政策の発展に繋げています。

なぜ農業に力を入れているのかといいますと、旭川の農業を守って発展させていくことは、旭川を守って発展させていくことになっていくと本気で思っています。どうしてかといいますと、旭川の農業は旭川の歴史そのもので、村ができてわずか140年くらいの歴史かもしれませんが、農業があって旭川が発展していったということです。

それから、何よりも大切なことは、未来にかかっているということです。農業が守られて発展して行って未来に繋がっていくと私は本気でそう思っています。しっかり農業を立て直していきたいと思えます。文化そのものといっても過言ではないと思っています。

私は、これから農業をどうするのかという視点でいうと、1つは持続可能な農業をどうしていくのか、それから、そのためにいろいろなことをやらなくてはなりません。販路拡大、担い手の確保、今後の政策もしっかりと作り上げていかなければならないと思っています。

この3つの観点からいうと、持続可能な農業では、先ほどのお話にありますとおり、お米を基本に守っていくことが必要ではないか、いろいろ国の政策とか、国会議員の秘書をやっていた時に、農協青年部の皆さんから要望をいただき、憤りとか未来に対する思いを聞いてきましたが、旭川は全道一の米どころですから、お米をしっかりとやっていかなければならないと思っています。そのために必要なことはスマート農業や、下国シェフに本日カレーを調理していただけてますが、まずは地元の皆様旭川の農業は素晴らしいと感じてもらうことです。そもそも、お米の生産量が全道一であることを知っている人が少ないんです。野菜でいうと、60品目と多種品目でやっていることを知らないのです、まずは知ってもらう必要があります。

下国シェフには農政部からのアドバイスもあって食のアンバサダーになっていただき、子ども達の食育とか、旭川のカレーとかを道新に取材してもらい、地域に発信していくことからやっていかなければダメだと思ってやっています。まずは発信をすることです。

そのうちの1つのテーマとして、フードフォレスト旭川構想をこれから始めようと思っています。よくデザイン都市というのを聞かれますが、デザイン都市は、家具とか木工とかそういうのはもちろんありますが、もう1つはデザイン思考です。何かといいますと、今までの市役所の縦割りだと連携が進んでいきませんが、デザイン思考は横串を刺していき、農政部だけではなく、経済部も総合政策部も女性活躍推進部も子育て支援部も一緒にやっていく、これがデザイン思考なんで

す。色々便利にするために横串を通してやっていく、こういう中でフードフォレスト旭川構想というのをやります。現在制作中ですが、まず生産地があって、作っていただく方に光を当てていく、食の安全・安心に光を当てていく、そして流通過程、トラック運転手とかどういった思いがあるのかいろいろありますし、お店で売っている方の気持ちもくみとったり、それから居酒屋の人達の気持ちを有機的に連携させていく。具体的な計画はこれからですが、デザイン思考の日本の第一人者で旭川のCDP、デザインプロデューサーになってもらった石川氏と下國シェフと連携してもらい、これからまさに取組を進めているところなので、楽しみにしていただきたいと思っています。

それから米粉です。みなさんどう思っていますか。過去に失敗事例がありまして、米粉を売り出そうとしましたが、なかなか売り先が見つからず、今は飽きられてしまいました。先日、私はベトナムに行きましたけど、ベトナムは米粉が主食です。ヨーロッパではみんなパンを食べていますが、米粉はグルテンフリーなので、色々売り先を考えれば、これからヒットすると考えています。

また、ベイシアという130店舗あるスーパーがありまして、群馬を中心に営業しています。その社長は旭川出身ということもありまして、今年はちょっとした旭川のものを売っていただきました。これからもどんどんやっていきたいと思っています。

それから、去年は羽田空港で1市8町の物産展をやりました。その目的は、羽田で物を売って稼ぐことではなくて、発信するという事でやっています。できればこれを北京の空港でやるとか、シンガポールでやるとか、そういう風に広げていくように羽田空港の会長さんと話をしています。その会長さんは世界に人脈を持っています。

それから、泉大津市と連携して、有機米を給食で使ってくれるんです。今年から取り組んでいます。オーガニックビレッジ宣言、旭川もこれから宣言しますが、日本で初めて生産地と消費地と両方で宣言することになります。12月に提携する予定です。

それから、万博との構想も進めたいと思っています。家具の方も連携しながらやっていますが、食の方も万博の泉大津市と連携し、コーナーを設けてやっていきたいと思っています。

それから、観光という御意見が出ましたが、ATWS（アドベンチャートラベルワールドサミット）というのがありまして、文化の体験や、川下りなどの地域ならではの取組を体験をする。世界の市場ですごい経済規模なんですけど、これから北海道で総会があるので、旭川も手を上げて応募しています。北海道と連携して、世界の国々から旭川に来てもらい、農業のツーリズムを体験してもらおうとか、田植えをしてもらおうとか、収穫してもらおうとか、そういう取組を行うことになっています。

今までは、なかなか海外から来てもらうことは少なかったですが、12月15日からジェットスターが飛びますので、成田から多くの外国人が旭川に来てくれます。夢物語ではなく、海外から今まで以上にたくさん来ます。オーストラリア、国内の人、子ども達もそうですけど、海外から来た人に農業体験をしてもらう。そういった観光的な取組をしていきたいと思っています。

大切なことは、私たちの政策と農家の方の思いが一致しているかどうかなんです。これからの旭川の農業を担っていくわけなんです。実際に後継者がいないという心配がある、どういう作物を作っていけばいいのか悩みがある、どういった所で買ってもらえるか考えがある、そういったことをどんどん言っていただき、私たちが政策を作って、ともに旭川市の農業が発展していくようにしたいと思っています。

私は47歳です。皆さんは若いですが、農協の役員さん、若手の皆さんとひとつになってこれからの旭川を変えていきたいと思えます。

(この後、下國シェフが調理した料理を出席者で試食した。)

以上